

令和6年度 全国学力・学習状況調査及び長崎県学力調査 〈佐世保市の結果・改善策等について〉

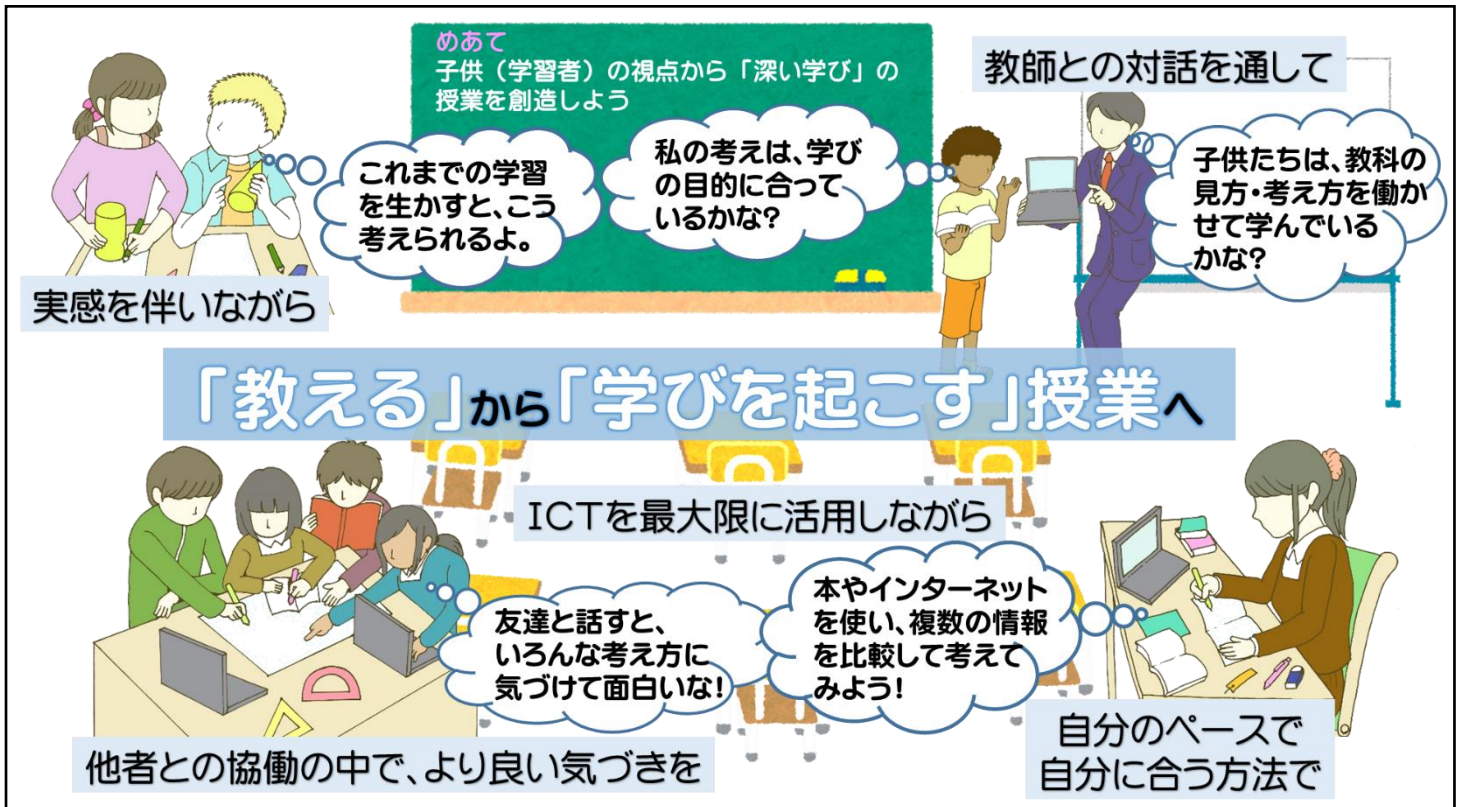
佐世保市教育委員会

〇はじめに

現在の学校には、変化の激しい時代を生き抜く子供たちが、自分のよさや可能性を發揮しながら、豊かな人生を切り拓き、多様な人々と協働して持続可能な社会を築いていく一員となるための資質・能力の育成が求められています。

そのためには、日々の授業において、「子供たちが自ら課題を見つけ、考え、判断し、よりよい解決方法を見出す」学習経験が重要です。画一的・同調主義的な学習に陥ることなく、これまでの学校文化で培った、子供たちの思考を深める「発問」の工夫や、子供の多様性と向き合いながら目標を共有して学び合う集団づくりなど、今ある強みを最大限に生かしつつ、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進していきましょう。

☆これからの授業イメージ（教師は子供たちの主体的な学びを支援する伴走者）



☆学力調査の問題には、授業改善のメッセージが込められています。

調査問題にある学習場面を見てみると、「主体的な学び」や「対話的な学び」の実際が描かれています。また、1人1台端末等をツールとした対話を通して、よりよい考えを導き出したり、教科における知識・技能を活用して情報を比較したりするなど、他者の考えを教科横断的な視点から考察し、自らの考えを再構築する等の授業展開が重要であることが伝わるのではないのでしょうか。

まずは、普段の授業と結び付けて調査問題を振り返ってみてください。日々の授業改善に向け、校内研修等で本資料の積極的な活用をお願いします。

令和6年度 全国学力・学習状況調査及び長崎県学力調査結果の概要（佐世保市）

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施日 令和6年4月18日（木）

3 対象

【全国学力・学習状況調査】

小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年
中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年

【長崎県学力調査】

小学校第5学年・義務教育学校前期課程第5学年（※理科のみ第6学年）
中学校第2学年・義務教育学校後期課程第2学年（※英語のみ第3学年）

4 調査内容

（1）教科に関する調査

【全国学力・学習状況調査】

小学校調査・・・国語、算数 中学校調査・・・国語、数学

【長崎県学力調査】

小学校調査・・・国語・算数・理科 中学校調査・・・国語・数学・英語

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立てて実践し、評価・改善する力等に関わる内容

（2）生活習慣や学習環境等に関する質問調査【全国学力・学習状況調査】

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※調査問題は、次の Web ページから閲覧できます。

<https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

Ⅱ 令和6年度 教科に関する調査結果について

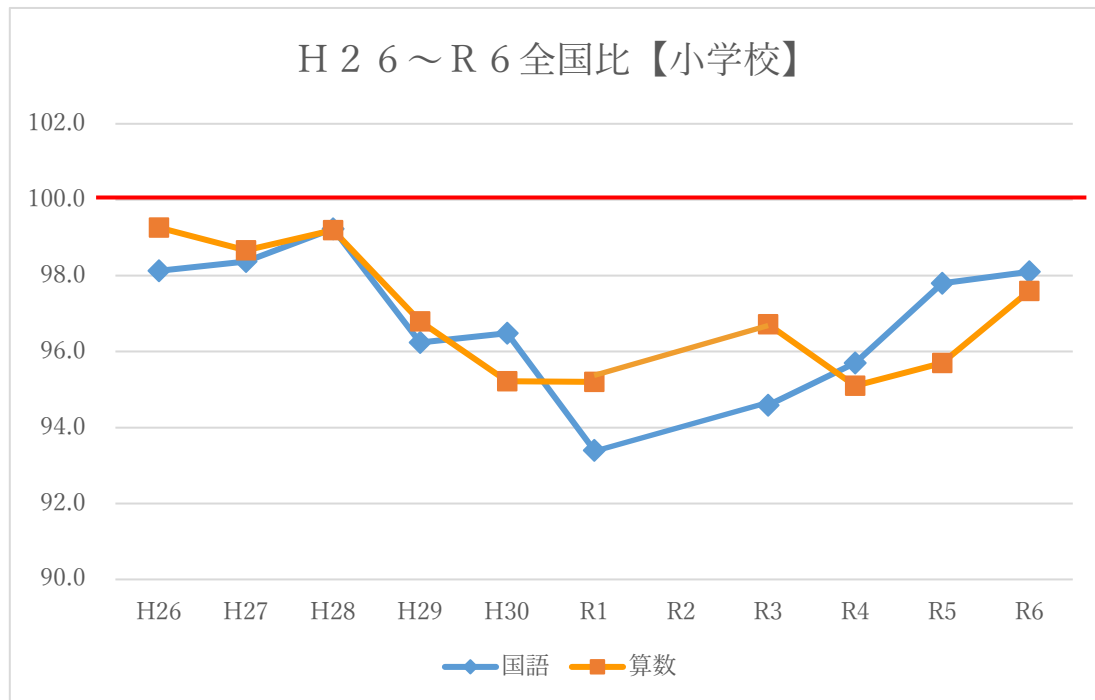
(1) 全国学力・学習状況調査について（本市と全国・県との比較）

① 小学校及び義務教育学校前期課程

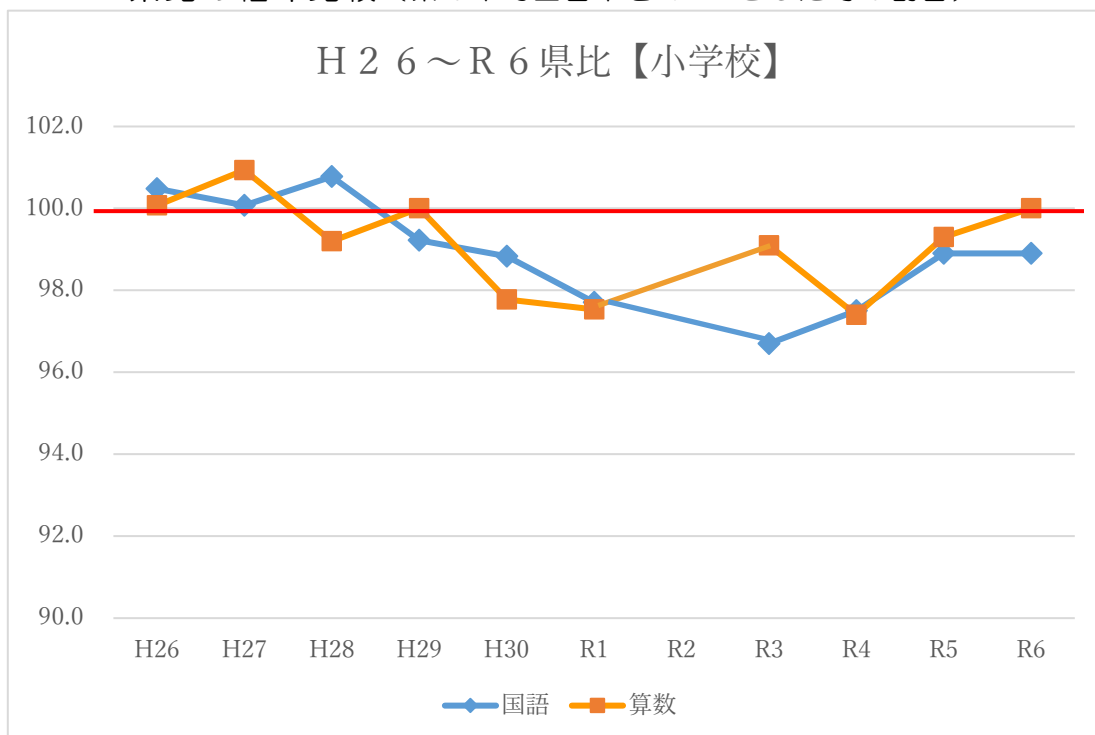
単位：％（平均正答率）

	佐世保市	長崎県	全国	本市の 全国達成率
国語	66	67	67.7	98.1
算数	62	62	63.4	97.6

全国比の経年比較（全国の前年正答率を100とした時の割合）



県比の経年比較（県の前年正答率を100とした時の割合）

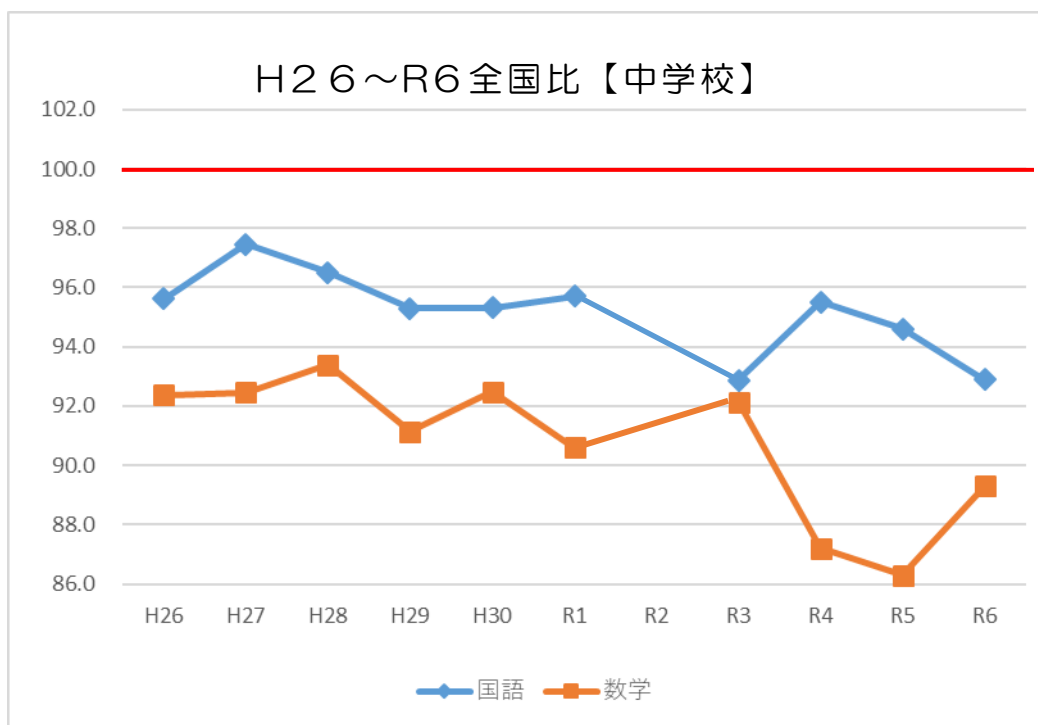


② 中学校及び義務教育学校後期課程

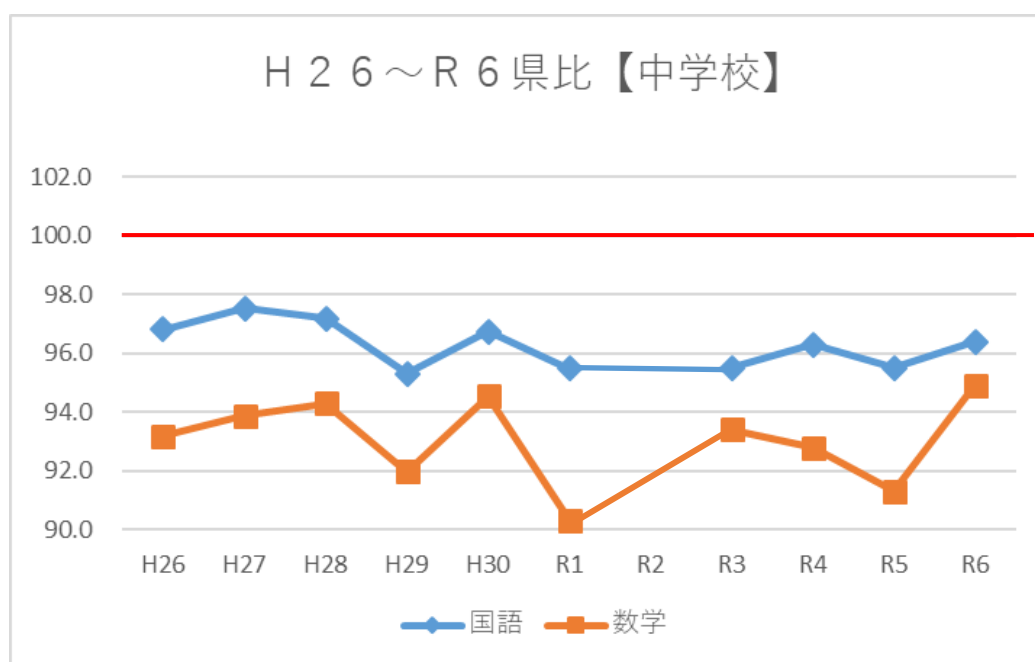
単位：％（平均正答率）

	佐世保市	長崎県	全国	本市の 全国達成率
国語	54	56	58.1	92.9
数学	47	49	52.5	89.3

全国比の経年比較（全国の平均正答率を 100 とした時の割合）



県比の経年比較（県の平均正答率を 100 とした時の割合）

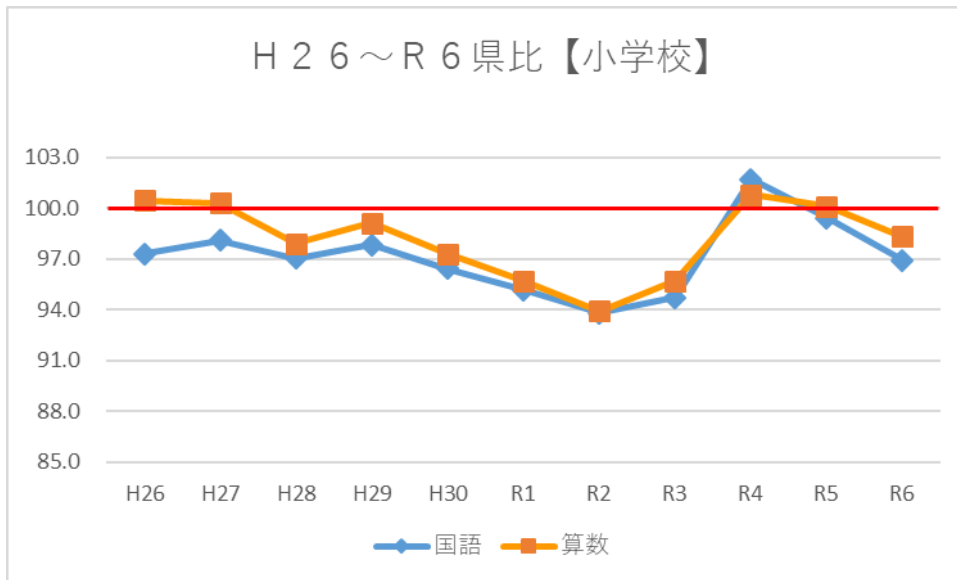


(2) 令和6年度 長崎県学力調査について（本市と県との比較）

① 小学校及び義務教育学校前期課程（国語・算数は小学校5年生 ※理科は小学校6年生）

	佐世保市	長崎県	本市の 県達成率
国語	56.0	57.8	96.9
算数	67.4	68.6	98.3
理科※	51.7	53.5	96.6

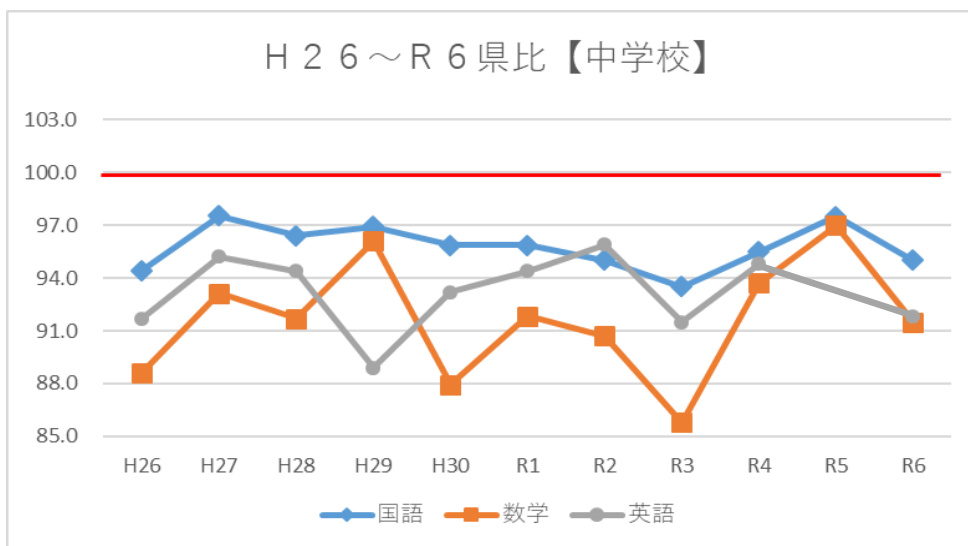
県比の経年比較（県の平均正答率を100とした時の割合）



② 中学校及び義務教育学校後期課程（国語・数学は中学校2年生 ※英語は中学校3年生）

	佐世保市	長崎県	本市の 県達成率
国語	59.0	62.1	95.0
数学	52.5	57.4	91.5
英語※	38.0	41.4	91.8

県比の経年比較（県の平均正答率を100とした時の割合）



Ⅲ 本市の結果及び改善策について

(1) 質問調査からみる授業改善について

1 学習意欲に関する項目

質問事項		小学校	中学校
国語の勉強は好きですか	佐世保市	60.5	61.4
	全国	62.0	64.3
	自校		
国語の授業の内容はよく分かりますか	佐世保市	83.0	78.3
	全国	86.3	82.7
	自校		
算数・数学の勉強は好きですか	佐世保市	63.1	62.4
	全国	61.0	57.2
	自校		
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	佐世保市	80.4	77.0
	全国	82.1	75.7
	自校		

<改善策>

○今年度の目標として「勉強が好き」の値を61%以上と設定していましたが、小学校国語以外は目標値を達成しました。

○小学校及び中学校「国語」においては、「勉強が好き」「授業の内容はよく分かる」と回答した児童生徒は、正答率も高い傾向にあります。「できた！わかった！」と感じる授業改善を引き続き願います。

○中学校数学については、「勉強が好き」「授業の内容はよく分かる」と回答した割合が高いにもかかわらず、正答率が全国を大きく下回っています。授業においては、知識・技能の習得に偏ることなく、生徒が自ら目的意識をもって問題を発見したり、解決したりする場面を意図的に設定していく必要があると考えられます。

2 授業改善（主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメント）に関する項目

質問事項		小学校	中学校
前学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	佐世保市	60.6	55.1
	全国	67.6	64.8
	自校		
前学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	佐世保市	77.1	74.7
	全国	81.9	80.3
	自校		
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	佐世保市	83.3	84.3
	全国	86.3	86.1
	自校		
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	佐世保市	77.3	83.0
	全国	81.3	82.2
	自校		

<改善策>

○小学校においては、すべての項目で昨年度より向上しており、正答率にも成果が表れています。全国との差はありますが、授業改善は一定進んでいると考えられます。

○中学校においては、多くの項目で大きな上昇が見られました。ただし、「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいた」については、微増にとどまっており、生徒が学びの主体となった授業への改善が不十分ではないかと推察されます。必要感のある魅力的な教材との出会わせ方や、発問等を精選することで、生徒が自ら学びに向かい、「できた！わかった！学ぶことが楽しい！」と感じる質の高い授業への改善につなげていきましょう。

○総合的な学習については、探究的な学習を行っている学校ほど正答率が高い傾向が見られました。各教科を横断的につなぎ、学んだことを活用する場面を、意図的に仕組みましょう。

3 家庭学習に関する項目

質問事項		小学校	中学校
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）	佐世保市	50.0	58.0
	全国	54.6	64.3
	自校		

<改善策>

○1日当たりの学習時間については、全国との差が大きいです。家庭学習では、知識・技能の習得を目的としたものだけでなく、児童生徒が自らの課題に応じて学びを選択できるように工夫をしましょう。

○1人1台端末を活用し、授業内容を確認できる環境を整えたり、理解度に応じてデジタルドリルの学習を促したりすることが考えられます。

4 ICTの活用について

質問事項		小学校	中学校
前の学年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（週3回以上）	佐世保市	38.8	58.0
	全国	59.5	64.4
	自校		
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（週3回以上）	佐世保市	86.7	88.5
	全国	93.2	90.8
	自校		

<改善策>

○児童生徒が授業でICTを使う頻度は、全国に比べ低い（特に小学校）ことがわかりました。一方、教員は週3回以上使用しているとの回答の割合は比較的高くなっています。このことから、ICT機器の活用が、資料の提示等にとどまり、個別最適な学びや協働的な学びに生かされていないのではないかと推測されます。

○全国的にもICTの活用頻度と正答率に相関があることがわかっています。ICTの有用性を発揮できる場面を見極め、個別最適な学びや協働的な学びのツールとしての活用の幅を広げていきましょう。

(2) 学力調査問題について

小学校国語

調査問題	区分	佐世保市	長崎県	全国	自校	県達成率	全国達成率
全国学力調査	全体	66	67	67.7		0.0%	0.0%
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	62.2	63.4	64.4		0.0%	0.0%
	(2) 情報の扱い方に関する事項	85.6	85.9	86.9		0.0%	0.0%
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	71.6	74.5	74.6		0.0%	0.0%
	A 話すこと・聞くこと	59.0	59.1	59.8		0.0%	0.0%
	B 書くこと	67.0	67.9	68.4		0.0%	0.0%
	C 読むこと	69.8	70.9	70.7		0.0%	0.0%
県学力調査	全体	56.0	57.8			0.0%	
	知識及び技能	65.4	67.9			0.0%	
	話すこと・聞くこと	61.5	63.6			0.0%	
	書くこと	45.2	48.1			0.0%	
	読むこと	35.6	35.1			0.0%	

小学校算数

調査問題	区分	佐世保市	長崎県	全国	自校	県達成率	全国達成率
全国学力調査	全体	62	62	63.4		0.0%	0.0%
	A 数と計算	65.4	64.8	66.0		0.0%	0.0%
	B 図形	64.9	65.0	66.3		0.0%	0.0%
	C 変化と関係	47.0	47.8	51.7		0.0%	0.0%
	D データの活用	59.4	60.7	61.8		0.0%	0.0%
県学力調査	全体	67.4	68.6			0.0%	
	数と計算	64.6	66.1			0.0%	
	図形	53.4	54.6			0.0%	
	変化と関係	67.3	69.1			0.0%	
	データの活用	86.4	86.2			0.0%	

小学校理科

調査問題	区分	佐世保市	長崎県	全国	自校	県達成率	全国達成率
県学力調査	全体	51.7	53.5			0.0%	
	エネルギー	63.0	65.1			0.0%	
	粒子	28.3	28.8			0.0%	
	生命	55.9	60.0			0.0%	
	地球	65.9	66.4			0.0%	

中学校国語

調査問題	区分	佐世保市	長崎県	全国	自校	県達成率	全国達成率
全国学力調査	全体	54	56	58.1		0.0%	0.0%
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	55.1	57.2	59.2		0.0%	0.0%
	(2) 情報の扱い方に関する事項	56.2	56.9	59.6		0.0%	0.0%
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.4	78.5	75.6		0.0%	0.0%
	A 話すこと・聞くこと	55.3	56.7	58.8		0.0%	0.0%
	B 書くこと	61.8	64.0	65.3		0.0%	0.0%
	C 読むこと	42.8	45.2	47.9		0.0%	0.0%
県学力調査	全体	59.0	62.1			0.0%	
	知識及び技能	57.8	60.9			0.0%	
	話すこと・聞くこと	64.6	66.8			0.0%	
	書くこと	51.7	53.3			0.0%	
	読むこと	60.5	64.9			0.0%	

中学校数学

調査問題	区分	佐世保市	長崎県	全国	自校	県達成率	全国達成率
全国学力調査	全体	47	49	52.5		0.0%	0.0%
	A 数と式	43.3	46.8	51.1		0.0%	0.0%
	B 図形	34.6	36.5	40.3		0.0%	0.0%
	C 関数	56.9	59.1	60.7		0.0%	0.0%
	D データの活用	50.5	52.4	55.5		0.0%	0.0%
県学力調査	全体	52.5	57.4			0.0%	
	数と式	56.1	61.3			0.0%	
	図形	53.3	55.0			0.0%	
	関数	51.4	56.0			0.0%	
	データの活用	47.5	55.1			0.0%	

中学校英語

調査問題	区分	佐世保市	長崎県	全国	自校	県達成率	全国達成率
県学力調査	全体	38.0	41.4			0.0%	
	聞くこと	44.4	48.0			0.0%	
	読むこと	46.1	48.6			0.0%	
	話すこと						
	書くこと	24.0	28.2			0.0%	

IV 学力調査問題を通じた授業改善策について

学力調査問題は、次の2点を意図して出題されています。

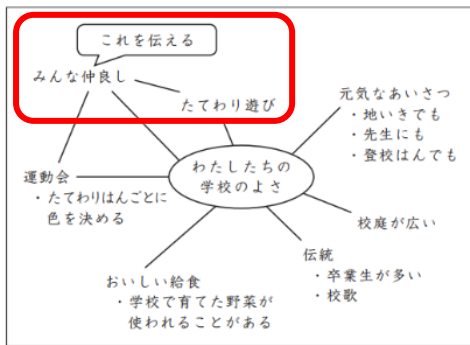
- ①学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- ②各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの**授業改善のメッセージを発信**。

調査問題と関連させて、普段行っている授業を振り返ることが重要です。

例えば、国語の問題には、児童生徒が自分の考えや思いを持って学習に取り組む場面や学習の目的に応じて対話をする場面、思考ツールを活用して考えを整理する場面が示されています。このような場面を普段の授業で計画できているかを考えながら、問題分析を行う必要があります。

(小学校 大問2)

【高山さんのメモ】



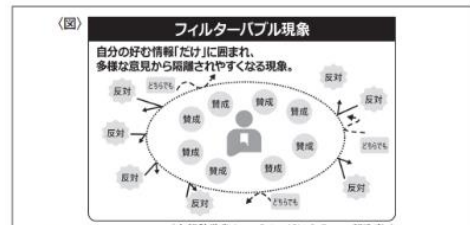
【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校が一番のよさだと思うから、文章に書こう。

高山さん

2 高山さんの学校では、学校のよさを伝える文章を書くことになりました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

(中学校 大問1)



（解説）インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん：皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん：私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん：（解説）の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん：身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次の「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

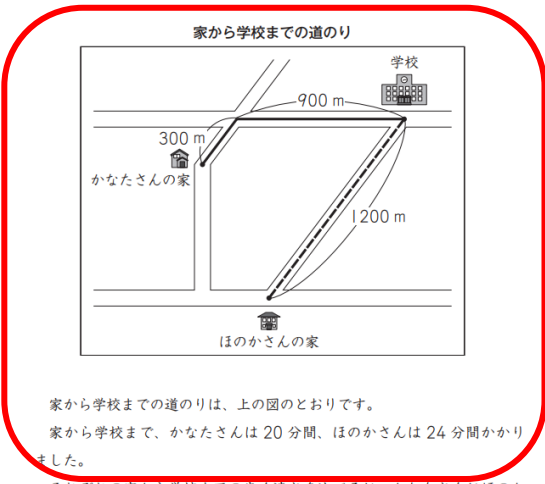
話し合いの一部

算数・数学においては、単に知識・技能を問う問題だけでなく、児童生徒が主体となって問題を統一的・発展的に考える場面等が示されています。普段の授業においても、複数の事象から共通点を見出す場面や、「他の場合はどうなるだろうか？条件を変えても成り立つといえるだろうか？」と、新たな問を引き出すような場面を設定できているかを考えながら問題分析を行う必要があります。

4 (小学校 大問4)

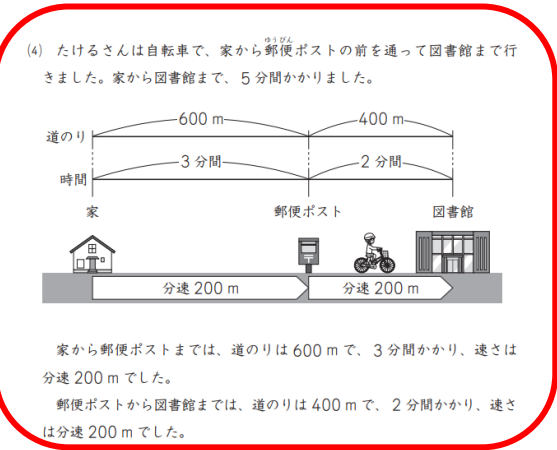
あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。
 家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。
 それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。
 下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。
 また、その番号を選んだだけを、言葉や数を使って書きましょう。

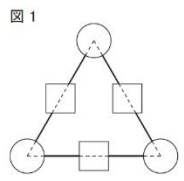
- 1 かなたさん
- 2 ほのかさん



(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通過して図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。
 家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。
 郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。
 家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。
 答えを書きましょう。

(中学校 大問6)

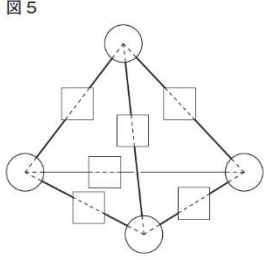
6 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つつ入れ、□にはその□がかかっている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。



計算の例

3つの○に1、3、6を入れると
 3つの□にはそれぞれ
 1+3、3+6、6+1
 の計算結果が入る。
 だから、3つの□には4、9、7
 が入る。

(3) 優真さんは、正三角形を正四面体に変えても、各頂点の○に入れた整数の和と各辺の□に入る整数の和の間には何か関係があるのではないかと思います。正四面体の図をかいて考えてみることにしました。次の図5は、正四面体の図の各頂点に○を、各辺に□をかいたものです。



このとき、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について、どのようなことが予想できますか。前ページの予想のように、「～は、……になる。」という形で書きなさい。

☆国立教育政策研究所「教育課程研究センター」の全国学力・学習状況調査問題に係る授業改善策等の資料については、以下のホームページから閲覧することができます。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

(全国学力・学習状況調査の結果 (概要))

(授業アイデア例 小学校国語)

2. 教科に関する調査結果 (4) 中学校数学 データの活用 R6

分析のポイント③ (課題) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに、引き続き課題がある。

具体的な設問例 大問7(2) 車いすボットの進んだ距離について、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明する。

関連する過去の設問例 令和5年度 7(2) 2つの箱ひげ図の分布の傾向を比較して、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

2つの箱ひげ図の間に注目して傾向を説明

解答の分析

速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向がある(正答率約76%)。この傾向を説明するために、進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明する。

指摘改善のポイント

- 複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動や判断の理由を説明し合う活動を通して、判断の理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

「春花小の6年生と町の魅力を紹介しよう」

～目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する～

(実施対象学年) 第5・6学年

目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討し、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が明らかになった。そこで、本授業アイデア例では、令和6年度全国学力・学習状況調査【小学校】目標1「和田さん」の思考の流れに沿って、課題に応じた3つの場面を取り上げて、指導事例を紹介する。

指導事例① 目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討する場面

指導事例② 自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるようにする場面

指導事例③ 学習を振り返り、理解を深める場面

指導事例④ 目的や意図に応じて、話題を決め、伝え合う内容を検討する場面

夏草小学校の森川さんの学校では、春花小学校の6年生と町の魅力についてオンラインで紹介し合うことになりました。夏草小学校の森川さんは、春花小学校の島田さんと紹介し合うようとしています。

森川さん 夏草町の魅力を伝えるには、この町ならではの特徴を選んで伝えるのが良かったらいいかな。伝える情報は総合的な学習の時間に調べたからたくさんある。

島田さん 島田さんが知りたいと思っていることがあるだろうし、私が伝えたいこともあるし、どうすればお互いの町の魅力を時間内に紹介し合えるか悩んでいます。

限られた時間で、自分の目的や意図、聞き手の求めに応じて話すためには、伝える情報を整理しておく必要がある。森川さんに島田さんが求めていることについて尋ねてみよう。

※教師は事前に相手の学校と打合せを行う。

【島田さんから森川さんに届いたメールの一部】

私は、春花町のりよくは伝統工芸がたくさんあり、伝統を大切に守っていると感心しています。オンライン交流では、森川さんの町の伝統文化について教えてほしいです。

【メールの内容を踏まえて、オンライン交流に向けたメモを作成する森川さんの様子】

島田さんが知りたいこと、自分が伝えたいことを整理しました。情報量が多くなってしまいました。話す時間が限られているので、何から話すか迷っています。

森川さんは、相手を知りたいこと、自分が伝えたいことを整理することができました。でも、情報量が多くなってしまったそうです。限られた時間で話すために、皆さんからアドバイスはありませんか。

これは伝えたいことを先に決めるっていいんじゃないかな。

伝える優先順位を考えて、内容や量を工夫するといいと思います。

言葉だけで伝えると時間がかかることがあるので、写真などを用意してもいいですね。

☆長崎県教育庁義務教育課の「学力向上」のページでは、全国学力・学習状況調査問題の結果概要や授業改善に関わる資料(学びの習慣化メソッドなど)を閲覧できます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/kanko-kyoiku-bunka/shochuko/jigyouchousa-shochuko/key-gakuryoku/>

(長崎県の結果の概要)

(学びの習慣化メソッド)

③ 四 話の展開を捉え、条件に合わせて書く [R5 重点課題]

・表現の効果を考え、描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題です。

<状況と課題>

③の正答率は46.4%であり、全国平均との差は-2.9ポイントでした。また、無解答率は13.7%でした。解答の状況を見ると、3割の生徒は表現を工夫して物語の最後の場面を書くことができたものの、自分が書きたい表現の効果については、解答することができていませんでした。

前置詞や体言止めなどの表現技法や描寫の良さについて、知識として習得するだけでなく、自分のレポートや意見文などの中で、明確な目的を持って使うことに課題があると考えられます。

☆正答率 (%)

全国	49.3
本県	46.4
市町	
自校	

<自身の授業改善のポイント>

授業での学び -こんな場面を仕組みましよう-

ポイント1 魅力的な教材(題材)と出合わせる

子供を魅力的な教材(題材)と出わせたり、教材(題材)との出合わせ方を工夫したりしましょう。**「もっと知りたい!調べたい!」という課題や「なぜ?」という問いが生まれれば、子供は授業外の時間にも自ら学びたくなります。**

授業での学びが、授業外(休み時間、放課後、家庭、地域など)の学びへ向けての導入となります。

★課題を自分事として捉えさせることが大切です。そのために、魅力的な教材(題材)と出合わせる工夫をしましょう。

課題解決に向けて、誰とどの様に働きたいのか、自分で見直しをもち、主体的に取り組むことにつながります。

ポイント2 「自己決定」する場面を設ける

授業の中で、子供が自分にとって最適な学習の進め方を考え、自分で決める場面を設けましょう。やる気が高まるとともに、授業外でも自ら学びを進める力が高まります。

自己決定する内容や方法の例

- 学習計画、課題(練習問題)の内容や量、難易度
- 学習の進め方 一人で、複数で、その時々に応じて相手を決めて
- 対話の相手 同じ考えの相手、異なる考えの相手、教えてもらいたい相手、アドバイスをしたい相手
- 情報を収集する方法 教科書、資料集、web、図鑑、インタビュー
- 情報を整理し分析する方法 ノート、ワークシート、学習用紙など

★子供の発達段階、学習内容に応じて、子供が自己決定する場面を段階的に取り入れましょう。

★それぞれの学びの特性やよさを子供自身に自覚させ、なぜその内容や方法を選択するのか、目的をもって選択できるように支援しましょう。

★教師は子供の学びを見取り、困っている時には助言をしたり友達との協働を促したりするなどの支援を行います。

ポイント3 自分を見つめるための振り返りをさせる

自分の学習の進め方や学んだことを振り返り、理解度を確認したり授業外での学びを計画したりする場面を設けましょう。子供は「自分を客観的に把握する力」が高まることで、新たな課題の解決に向かって学びを進めることができるようになります。

振り返りの視点→授業外での学びにつなげる例

- 授業の理解度の自己評価 → 理解に応じた学習を考えた
- 授業をとおして興味・関心をもった内容 → 授業外の学習でも取り組むように促す
- 話し合いの振り返り → 新たな意見や学び方について、何がよかったのかを考えた

★学習内容を自分で考えることができない子供には、複数の課題や学習例を提示し選ばせましょう。

★振り返りのような時間に、学習の計画を立てることも考えられます。

ポイント4 次時の学習に目を向けさせる

次時の学習内容を確認し、子供に学習の見通しを持たせることで、子供は、安心して授業に臨むことができますようになります。

次時の学習を確認する方法の例

- 振り返りの場面で、子供たちから出した意見の中から、次の学びにつながるような意見を取り上げる

★また、見直しをもつことで、子供は必要に応じて学習に取り組むようになります。

★学習に取り組むことで、子供が自分の考えをもって主体的に授業に参加できるなどの効果があります。

学習を仕入れた反転学習という方法もあります。

【授業後】 次時の課題を確認する。
【授業外】 自分を見つめる。
【次の授業】 考えを伝え合う場面から始める。

○授業の進め方や、学習する際のルール・マナーの共通理解を図りましょう。子供が自ら学びを進めたいためには、一人一人の意欲、考え、学び方などが尊重されることが大切です。

※教室という空間、授業という場が、温かく安心できるものであると、子供たちは生き生きと学びを進めることができます。

☆長崎県教育委員会が発行している学力UP通信『明日のために』では、学力調査の結果を踏まえた授業改善のポイントがまとめられています。C4th 連絡掲示板にて閲覧できます。

(明日のために その168 小学校算数)

(明日のために その170 中学校英語)

学力UP通信
明日のために その168
 長崎県教育委員会 R 6 . 7 . 2 5

今号では、小学校算数について、県学力調査の結果を踏まえ、令和5年度重点課題の改善に向けた活動例をお伝えします。

小学校算数 <重点課題> 図形の性質を理解し、面積の求め方を考える 関連問題 4 (4)

4 (4) ひなこんたちは、まわりの長さが12cmの図形をかきました。

ひなこ 1辺が3cmの正方形をかきました。

そうた 3cmや2cmの辺がある、左のような図形をかきました。

そうたさんがかいた図形の面積はそれぞれですが、下の1から4までの中から1つ選び、面積を書きましょう。

1 長さがわからない辺があるので、求めることができない。
 2 76
 3 81
 4 91

F6
 正答率 48.3%

進歩の到達目標
 (2) F6 (面積を求める式と答えを書く問題)に正解する割合を求め、H25、H27とを比較する。
 この図形の面積を求める式と答えを書きなさい。正解し、図1の形で91 cm²を書きなさい。

H25
 正答率 70.6%

(4) 下の図形の面積を求める式と答えを書きなさい。
 12cm
 3cm
 2cm
 3cm

H27
 正答率 63.9%

面積を求める式と答えを書く問題の正答率はH25、H27ともに60%以上、H25は、目盛りを数えることで辺の長さが分かるが、H27は、辺の長さを計算で求める必要があったため、正答率が低くなったと考えられます。

なぜ6割以上の子供が、正解することができなかったのでしょうか？

基本的な複合図形である「L字型」の面積に関する問題は、過去にも出題しています。例えば、H25、H27のように面積を求める式と答えを書くことを求めると、6割以上の子供が正解しました。本問では選択式とし、「Oml」という選択肢だけではなく、「長さがわからない辺があるので、求めることができない」という選択肢「1」を設けました。そのため、難易度が上がったと考えられ、正答率は48.3%と大きく下がりました。また、複合図形の面積の求め方の理解が曖昧な子供や自信がない子供の多くは、主に以下のように考えて、「1」を選択したのではないかと予想しています。

正方形でも長方形でもないから、公式は使えない。長さがわからないところもあるし、面積は求められないよね。

長方形や正方形の面積の公式が使えるようにすればいいと思う。でも長さがわからない辺があるので、面積は求められないのかな？

計算すると81になったんだけど、1に「求めることができない」と書いてあるから、面積は求められないのかもれない。

学力UP通信
明日のために その170
 長崎県教育委員会 R 6 . 8 . 2

中学校英語について、県学力調査における令和5年度重点課題の関連問題の結果を踏まえ、改善に向けたポイントをお伝えします。

中学校英語 【重点課題】 目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る：関連問題 3

3 (聞き取り問題)

あなたは、友だちのエミリーとイギリスでツアー旅行に参加しています。これから、ツアーガイドから予定の変更を聞くところです。その場に置かれたエミリーに、後で書きメモとして最も適切なものをAからDの中から1つ選び、その記号を書きなさい。英文は1回だけ読めます。

※英語の放送内容※

A
 1. see a lot of flowers (Hotel entrance at 9:30 a.m.)
 2. fish restaurant (Lunch)
 3. dance show

B
 1. visit the museum (Hotel entrance at 9:30 a.m.)
 2. hamburger shop (Lunch)
 3. concert

C
 1. visit the museum (Hotel entrance at 9:30 a.m.)
 2. hamburger shop (Lunch)
 3. dance show

D
 1. see a lot of flowers (Hotel entrance at 9:30 a.m.)
 2. pizza restaurant (Lunch)
 3. concert

I'm sorry, everyone. It's raining now. We have to change our plan. First, we wanted to see many kinds of flowers in the flower park, but we can't today. So, please come to the hotel entrance at 9:30 a.m. and we'll visit the museum. Second, for lunch, our plan was to eat delicious fish and pizza by the river. Our new plan is to go to the best hamburger shop in this town. Third, we will come back to the hotel before 6:00 p.m. because there is a special dance show this evening. I hope you have fun today.

この問題では、ツアーガイドの話から、必要な情報（変更した新たなスケジュール）を聞き取る場面を設定しています。県全体の正答率は43.5%でした。

目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る力を身に付けさせるために、授業でどのような工夫ができますか？

私たちは日本語による音読の会話も、「相手」や「目的」などを自然に踏まえながら行っているものです。そう考えると、英語の会話においても「目的・場面・状況」を意識するのは当然のことです。目的に関するキーワードに注意しながら英語を聞くなど、**聞き取りの視点を育てる場面**を設けるといいですよ。

なるほど！話されることで全てを事細かに聞き取ろうとするのではなく、視点をもって**目的に応じた聞き方**をすることが大切ですね。

対面や電話での会話、空港のアナウンス、映画など、「聞き取る力」は**日本の様々な場面**でコミュニケーションを支えています。「使える英語」を定着させるために、聞き取る力を鍛える授業を本気で作ってみませんか？（※次のページに続く）

☆佐世保市教育委員会発行『授業デザイン SASEBO』（令和5年度版・6年度版）

※次頁参照

「学び」をつなぐ 授業デザインSASEBO

～子どもの笑顔がキラッと輝く授業にしたい！～

佐世保市の先生方の授業は、著しく改善が進んでいます。

- ①本時（単元）でつきたい力を明確にした授業への改善
- ②つきたい力が身についた子どもの姿（まとめ）を意識した授業への改善
- ③つきたい力を獲得するための思考過程を生み出す見通し（めあて）を工夫した授業への改善

従来、「めあて」→「まとめ」→「つきたい力」の順に考えることが多かったように思いますが、この発想を転換し、「つきたい力」→「まとめ」→「めあて」の順に授業を構想することによって授業の質が高まっている様子が見られます。



もっと子どもたちの「できた」「わかった」の声を聞くために、こんな工夫をしてみましょう。

つきたい力に迫るために

1 発問を工夫しましょう。

○教師の説明や解説ばかり、一問一答の質問ばかりでは、子どもの思考が深まりません。子どもたちが「考えたい！」「表現したい！」と思うように発問を工夫しましょう。

学びや思考を深める発問とは？

- （例）桃太郎は、鬼ヶ島へ行きましたか？
⇒「はい」（子どもの考える余地がない）
- （例）桃太郎は、どこへ行ったのですか？
⇒「鬼ヶ島」（本文を読めばわかり、一問一答で終わる）
- （例）桃太郎は、どんなお話ですか？
⇒（自分の価値や考えと照らし合わせながら要約でき、対話をとおして自分の考えを深めることができる）

◆「ゆさぶる発問」（思考や認識に疑念を呈したり混乱を引き起こしたりすることによって、より確かな見方へと導く発問）を工夫しましょう！

✗ 先生ばかりが話す授業



2 山場をつくりましょう。

○子どもが自分の考えをもち集団で思考解決をするために「十分な時間の確保」「学習形態」「思考ツール」「ICT活用」を工夫しましょう。

（例）個別学習⇒協働学習⇒個別学習

自分の考えをもつ（主体的）→集団で考えを深める（対話的）→高まった考えを自覚する（深い）

（例）学びを深める学習形態の工夫

子ども同士（同じ考えや違う考え）の対話、理解の早さや深さの違いに着目した集団の形成による対話等を目的をもって仕組む。

（例）全員参加型の授業を目指す

思考ツールやICT機器を活用することによって、すべての子どもたちの学習参画を促す。

◆学級集団を親和的な人間関係の中で真剣に真理やより高次元な価値を求める集団へ高めましょう！

◆課題解決に至る思考過程（子どもがどこで戸惑うか、どこに着目することで課題解決に至るか等）をシミュレーションしておきましょう！

3 子どもの実態を大切にしましょう。

○先輩教師の素晴らしい授業を参観して、自分の学級で同じように実践してみたものの、まったく違う授業展開となってしまった。そんな経験は誰にでもあります。興味関心や既習事項の定着度等が変われば、同じ発問であっても子どもたちの反応は異なります。

◆授業（特に、発問や山場）を考えるときは、必ず一人一人の子どもたちの反応（顔や表情）を想像しましょう！

普段の授業、これだけは！これこそは！

授業者として、下記の視点だけは必ずもって、授業を構想しましょう。

- ①この授業（もしくは単元）でつきたい力は何か。
- ②つきたい力の身についた子どもの姿（＝ゴールの姿）はどのような姿か。
- ③そのような子どもにするために、どのような手立てをとるのか。

授業づくりの参考に

- 「長崎県授業改善メソッド」
（令和3年3月 長崎県教育委員会）
- 『「学び」をつなぐ
授業デザイン SASEBO」
（令和4年3月 佐世保市教育委員会）

